

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら－関狐禅寺教室（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2026年1月14日		～	2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	4名
○従業者評価実施期間	2026年1月14日		～	2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの発達状況や特性を丁寧に把握し、それぞれに合わせた個別支援計画を作成して支援を行っている点が事業所の強みです。子どもの興味や関心、得意なことを活かしながら活動を行い、安心して通所できる環境づくりを大切にしています。	子どもの成長や日々の様子について保護者様と共有しながら支援を行っております。通所時のやり取りや連絡帳等を通して情報共有を行い、子どもの状況や変化を共通理解できるよう心掛けています。家庭と事業所が連携しながら子どもの成長を支えていくことを意識して支援を行っています。	保護者様に活動の様子や支援内容がより分かりやすく伝わるよう、情報発信の方法について見直ししながら取り組んでいきます。
2			子どもの発達段階やニーズに応じた支援がより充実するよう、活動内容の工夫や支援方法の向上に取り組んでいきます。子どもが安心して活動できる環境づくりを継続しながら、支援の質の向上を図っていきます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	玄関先での引き渡しが中心となっているため、事業所内での活動の様子や環境について保護者に十分伝わっていない部分があることが課題と考えています。	安全面や運営上の理由から玄関先での引き渡しが中心となっており、活動の様子を直接見ていただく機会が少ないことが要因の一つと考えられます。	活動の様子や支援内容について保護者により分かりやすく伝えられるよう、情報共有の方法の充実を図っていきます。
2	家族支援プログラムや保護者様同士の交流の機会について、十分に実施できていないことも課題の一つと考えています。保護者同士が情報交換できる機会や、子育てに関する情報提供の場が限られている状況であります。	事業所の運営体制や利用時間の制約により、保護者様向けの研修や交流機会を十分に設けることが難しい状況があります。そのため家族支援の取組が十分に実施できていない点が課題の要因と考えています。	家族支援や保護者様同士の交流の機会について、事業所の状況を踏まえながら実施の可能性を検討していきます。保護者様が相談しやすい環境づくりも大切にしていきます。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら－関狐禅寺教室（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2026年1月14日		～	2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	2026年1月14 日		～	2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アンケートでは多くの項目で「はい」との回答をいただいております。子どもが安心して通所できる環境や、個別支援計画に基づいた支援が適切に行われている点が事業所の強みであると考えられます。今後もこの強みを活かしながら支援の充実を図っていきます。	子どもの発達状況や特性を踏まえ、個別支援計画に基づいた支援を行っています。また、活動内容が固定化しないよう工夫しながら、子どもが安心して楽しく活動できる環境づくりを心掛けています。	活動の様子や支援内容について、保護者により分かりやすく伝えられるよう情報共有の方法を充実させながら、安心して利用していただける事業所運営を進めていきます。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	玄関先での引き渡しが中心となっているため、事業所内の活動の様子を保護者が直接見る機会が少ないことが要因の一つと考えています。	安全面や運営上の理由により玄関先での引き渡しを中心となっており、事業所内の活動の様子を保護者が直接見る機会が少ないことが課題の要因の一つと考えられます。	活動の様子や支援内容について保護者により分かりやすく伝えられるよう、情報共有の方法の充実を図りながら安心して利用できる事業所運営に努めていきます。
2	保護者同士の交流の機会や家族支援に関する取組について、実施や周知が十分でない部分があり、今後の課題と考えています。	保護者同士の交流や家族支援の取組について、事業所の運営体制や時間的な制約により十分な機会を設けられていないことが要因と考えられます。	
3			